

平成 23 年度総会・特別講演会報告

Report on the JSPME General Assembly 2011 and the Special Lectures

中外製薬株式会社 品質保証部
Quality Assurance Dept. Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.

寺 蘭 隆
Takashi TERAZONO



岡田弘晃会長挨拶

平成 23 年度の製剤機械技術研究会総会及び特別講演会が 4 月 18 日（月）文京シビック小ホール（東京都文京区）にて開催されたので以下に報告する。

1. 総会

司会者の木村孝良事務局長より、本総会の出席者は 357 名（参加者 44 名、委任状 313 名）であり、会則第 26 条に定める会員数 836 名の 4 分の 1（209 名）以上を満たし、本総会が成立している旨宣言し、開会となった。

開会にあたり、岡田弘晃会長（東京薬科大学名誉教授）より以下の挨拶があった。

この度の東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）では未曾有の被害を生じました。本研究会を代表して、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

これだけ多くの災害ですから回復にも時間がかかると思いますが、皆様方がいつも、心しているリスクマネジメントにおいて倍率をどのくらいかければ良いか、非常に大変な試練の時だと思います。皆様方の関係の工場、その他の設備に置かれましても被害を受けたとの情報も入っております。早い復帰を心からお祈り申し上げます。

この大災害の状況について真摯に受け止め、本日の総会に関しても配慮することを考えましたが、現在粛々と進めている製剤機械技術研究会の一般社団法人化に向けて、後で板井先生にお話し頂きますが、定款を含めた今の準備状況のご報告と皆様方のご意見を頂くという総会の大きなテーマがあることから開催することに致しました。

予定と致しましては 9 月 1 日の設立登記、10 月

13日の静岡での第21回大会を設立時総会とし、製剤機械技術研究会は一般社団法人の「製剤機械技術学会」として大きく飛躍することになっています。従いまして、本日の総会の主な議題は例年のように事業計画、予算決算を審議頂くのですが、それに加え、学会、一般社団法人化に向けた実施計画を審議頂きたいと考えております。

また、本総会の後の特別講演会では国立医薬品食品衛生研究所 副所長の川西先生から「日本薬局方の第16改正と今後の課題」、東京大学大学院 准教授の桑嶋先生から「製薬産業の研究開発戦略—産業間比較の視点—」についての講演を予定している旨紹介された。



川西徹先生

引き続き、会則第14条の1に従い岡田弘晃会長が議長となり議事に入り、議事録署名人として、松本治氏（千代田化工建設(株)）及び鈴木正隆氏（株IHI）が選出された。

[第1号議案] 平成22年度会務報告に関して板井茂副会長より全体及び各委員会の活動内容が説明され、承認された。[第2号議案] 平成22年度収支決算報告に関して安藤英信副会長より説明後、平成22年度監査報告について砂田久一監事より山口博之監事他の立会いのもと監査が行われ正確であった旨の報告があり、共に承認された。[第3号議案] 平成23年度会務計画(案)に関しては板井茂副会長より説明され承認された。3月11日に開催された大正製薬株式会社の工場見学会では、途中で大地震が発生したが適切な避難誘導がなされた旨報告された。[第4号議案] 平成23年度収支予算(案)に関

しては安藤英信副会長より説明があり、承認された。なお、予算(案)では1月1日～12月31日となっているが、新法人の事業年度は4月1日～3月31日とすることから、1月1日～8月31日で決算し、改めて新法人として9月1日～3月31日までの予算化を行うことになる。[第5号議案] 一般社団法人(非営利型)への法人化に伴う審議事項に関して板井茂副会長より提案され、承認された。また、岡田弘晃会長より一般社団法人「製剤機械技術学会」定款案の主な項目について説明がなされた。以上をもってすべての議事の審議を終了した。

続いて「第11回製剤機械技術研究会仲井賞」受賞者の選考結果について檀上和美(名城大学教授)選考委員長より、新規性、実用性、社会における貢献度の観点から2件2グループの候補者が推薦され、6名の選考委員の賛成を得て、辻本広行氏(ホソカワミクロン(株))、川島嘉明先生(愛知学院大学教授)による「医工業/産官学の研究体制を特徴とするPLGA ナノスフェアシステムのプラットフォームとナノメディカルシステムの展開及び実用化」及び鶴野澤一臣氏、武井成通氏、磯部重実氏、平井由梨子氏(フロイント産業株式会社)による「高性能タブレットコーター「ハイコーターFZ」の開発」が受賞者として決定された旨報告された。なお、授賞式と受賞講演は本年10月13日～14日開催の第21回大会(板井茂実行委員長)で行われる。

閉会にあたり、本研究会顧問の山本恵司先生(千葉大学副学長)より、以下の挨拶があった。

本日はお忙しい中、平成23年度製剤機械技術研究会総会にご出席、ご審議頂き誠に有難うございました。仲井由宣先生が中心となられて設立された本研究会も、月並みですが光陰矢の如し、昨年は設立20周年と、ここまで発展してきたと思っております。

この秋には一般社団法人の製剤機械技術学会として、日本の社会の発展、進展に合わせた形で新しい段階を迎えます。ここに至るまでには、事務局、役員の皆様にはいろいろ準備頂きました。岡田会長のお話にもありましたように、秋には皆様にお集まり頂き、今後とも一層ご支援頂きますことをお願い致しますして本総会の閉会の挨拶とさせていただきます。

2. 特別講演会

総会に続き、岡田弘晃会長による開会の挨拶と講師の川西徹先生と桑嶋健一先生の紹介の後、102名の参加者のもと2題の特別講演が行われた。

特別講演-1は、本研究会顧問の寺田勝英先生(東

邦大学教授)の座長により、川西徹先生(国立医薬品食品衛生研究所 副所長)から「日本薬局方の第16改正と今後の課題」と題して講演され、特別講演-2は、岡田弘晃会長の座長により、桑島健一先生(東京大学大学院経済研究科 准教授)から「製薬産業の研究開発戦略—産業間比較の視点—」と題して講演された。以下にその講演内容を報告する。



桑島健一先生

2-1 「日本薬局方の第16改正と今後の課題」

本講演では、第16改正日本薬局方の改正概要、製剤総則の改正及び今後の課題について解説するとともに、日本薬局方における今後の課題について説明された。

日本薬局方は薬事法によって制定が義務づけられた、医薬品の品質を適正に確保するために必要な規格・基準及び標準的試験法等を示す公的な規範書である。薬事法によって少なくとも10年に一度全面改正を行うとされており、近年は5年ごとに全面改正が行われている。第16改正日本薬局方が本年3月末に告示されたが、収載品目数は1764となり各条品目の新規収載数は106、改正数は330にも及ぶ。

製剤総則の意義は、臨床上有用な製剤を合理的に分類、定義し、品質を保証するために必要な試験法、容器・包装、貯法等を示すことであるが、これまで、慣用的な製剤の分類を踏襲してきたこと、製剤の定義が硬直化してきたこと、品質確保のための製剤試験法として不十分であることから、この度の全面改正となった。製剤総則の改正方針は、①臨床で汎用されている製剤の収載、②製剤の適切な分類と定義、③製剤の機能の確保に必要な試験内容の充実、④製剤

試験(及び貯法)記載の整備、⑤国際調和への配慮であり、改正案の構成は、1. 製剤通則で製剤全般の共通事項を記載し、2. 製剤各条では1) 剤形の分類を①投与経路及び適用部位等を基準とする大分類、②形状を基準とする中分類、③特徴ある剤形(機能、特性を基準)を規定する小分類とし、2) 剤形を定義し、製法、製剤の特性、試験法、貯法を記載する、3) 生薬関連製剤とした。定義の変更については、散剤と顆粒剤、軟膏剤とクリーム剤について具体的に説明された。

今後の課題としては、①製薬企業、医療関係者、関連研究機関への周知、②各条収載製剤の記載の整備、③一般試験法に記載のない製剤特性試験法の設定、④製剤総則改正に関する諸外国への情報発信、⑤容器・包装関連の整備、⑥将来に亘っての課題として、医療現場において新たに標準的に用いられるようになる新製剤のフォローアップが求められるが、最後に、製造工程の違いあるいは製造工程管理を日局でどのように取り扱うべきか、例えば、不純物等、製剤の各条、バイオ医薬品の各条、QbDアプローチによる医薬品の各条収載、更に、医薬品原料の国際的調達が進む中、医薬品の製造の国際化の対応としてのEPのProductionの例(ヘパリン、エリスロポエチン)、及びアジア圏の局方との交流・連携の重要性について話された。

2-2 「製薬産業の研究開発戦略—産業間比較の視点—」

企業にとっては、事務・営業部門と研究・技術部門のコミュニケーションが重要であり、技術経営とは文系/理系の融合領域を対象とし、「技術」を中心に企業の経営を考えるアプローチである。本講演では、他産業と比較した医薬品の研究開発の特徴、医薬品の効果的な研究開発パターン、最後に製薬企業の経営戦略について経営学の視点から紹介された。

医薬品の研究開発の特徴は、人の生命と関連性が高いこと、研究開発の成功確率が低いことが挙げられるが、生命関連の製品であることから、開発プロセスにおける「有効性」「安全性」の試験がきわめて慎重に行われる。従って、長い研究開発期間、高い研究開発費、公的な規制との強い関わりが求められる

医薬品の研究開発プロセスについては探索段階と開発段階に分かれるが、前者は活動の主体が個人であり組織管理的なマネジメントの役割は限定的(事前のドメイン設定、インセンティブ設計)であるの

に対し、後者は組織主体であり、組織管理的マネジメントがパフォーマンスに貢献できる可能性が高い。

このような特徴を問題解決モデルで他産業と比較すると、医薬品産業は「幅広いサーチと詳細なテスト」が求められ、例えば、ビール業界のように「幅広いサーチは必要であるが簡単なテスト」、自動車業界のような「絞ったサーチと詳細なテスト」との違いが見られる。

医薬品の研究開発成果に影響するマネジメントとしては、以下の3つが考えられる。第1は、探索段階における研究者のモチベーションを高めるシステム、第2には開発に必要な知識統合の実現、そして第3は適切な「go or no-go」の判断であり、タイミングのよい絞り込みである。モチベーションに関しては、5%ルールを活用と過度の成果主義に対しては優秀な人材を念頭に置いた設計、組織の境界を越えた幅広いコミュニケーションに基づく知識統合の重要性、「go or no-go」の判断については、「目利き」

能力の重要性を挙げた。

日本製薬企業の経営戦略についてであるが、昨今のM&Aによる「規模の経済性」について、規模が大きいほど、成果が高くなる（固定費分散及び不確実性への対応力）ことに対し、「規模の不経済」（規模の増加に伴う管理上のロス）も考えると、水平的M&Aが今後も「必至」とはいえない。

日本の企業のとるべき戦略として、①集中と選択（コアビジネスの見極め、トータルソリューション、異業種連携）、②戦略的提携の活用（必要な時必要なだけ、学習と手段としてのオープンイノベーション）、③オペレーション能力の強化（現場能力、グローバル化の他産業先進事例からの学習）が重要であること、最後に、「自社産業からの学習」だけでは持続的競争優位は生まれにくいことから、類似の特性を持っている「他の製品・産業」を探しそのベストプラクティスから学ぶこと、そのための産業間比較の視点と異業種交流の重要性を強調された。



会場風景

[第1号議案]

製剤機械技術研究会

平成22年度会務報告

平成23年4月18日

会 務	回数	開催日	場 所/内 容	参加者(名)
平成22年度 総会・特別講演会	1	4月12日	文京シビック小ホール (東京・文京区)	総会(含委任状) 405名 特別講演会 85名
第19回講演会	1	8月27日	千里ライフサイエンスセンター (大阪・千里)	講演会 149名
20周年記念大会	1	10月18日～ 10月19日	タワーホール船堀 (東京・江戸川区)	大会 274名 交流会 171名
第11回製剤機械技術 シンポジウム	1	11月26日	慶應義塾大学薬学部 マルチメディアホール (東京・港区)	講演会 123名
工場見学会 (43回～45回)	3	2月12日 6月11日 10月3日～ 8日	塩野義製薬(株) 摂津工場 モリマシナリー(株) 本社工場 シンガポール製薬企業視察ツアー	参加者午前 48名 午後 46名 参加者 26名 参加者 20名
第9期教育研修会	14	4月24日～ 10月1日	第9期 内服固形剤 8回 第6期 無菌製剤 5回 第4期 半固形剤 2回	延 534名 延 256名 延 109名
製剤機械技術ハンド ブック(第2版)		10月発刊		
会誌の発行		3, 6, 9, 12月	Vol.19(No.1～4)	
会員名簿発行		6月	(平成22年度版)	

会 務	回 数	会 務	回 数
・役員会	1	・会誌/論文 編集委員会	4
・常任委員会	3	・工場見学会実行委員会	7
・正副会長会議	6	・ホームページ委員会	5
・正副委員長会議	1	・GMP委員会関係	20
・20周年記念大会実行委員会	5	・教育委員会	7
・第19回講演会実行委員会	1	・PAT委員会	13
・第11回製剤機械技術 シンポジウム実行委員会	3	・トレーサビリティ委員会	10
・国際委員会	4	・20周年記念出版委員会	3
		・会計監査	1

総開催数 115回 (昨年度実績 139回)

平成22年度 収支決算報告書

(自：平成22年1月1日 至：平成22年12月31日)

〔収入の部〕

(単位：円)

大科目	小科目	本年度予算	実績	%	備考
会費収入	事業体会費	39,400,000	40,000,000	102	198社×20万円、4社×10万円(計画197社)
	個人会費	1,200,000	1,195,000	100	239名×5千円(計画240名)
	小計	40,600,000	41,195,000	101	
事業収入	講演要旨集 広告代	1,100,000	1,230,000	112	23社×50,000円+バナー広告2万円×4社(計画20社+バナー5社)
	会誌 広告代	3,500,000	3,294,000	94	68, 69, 70, 71号広告掲載広告数微減
	大会個人会員参加費	350,000	320,000	91	32名×10,000円(計画35名)
	大会非会員参加費	160,000	200,000	125	10名×20,000円(計画8名)
	交流会参加費	960,000	792,000	83	99名×8000円(計画120名)
	講演会非会員参加費	15,000	30,000	200	10名×3,000円(計画5名)
	教育研修会参加費 固形 全テーマ	6,000,000	6,750,000	113	45名参加×15万円(計画40名)
	教育研修会参加費 固形 個別テーマ	900,000	900,000	100	30名参加×3万円
	教育研修会参加費 無菌	2,800,000	3,088,000	110	38名参加×8万円+4.8万円(計画35名)
	教育研修会参加費 半固形	1,500,000	1,600,000	107	24名参加×6万円, 非会員2名×8万円(計画30名×5万円)
	ワークショップ 参加費	0	0	—	
	シンポジウム 非会員参加費	30,000	36,000	120	3,000円×12名
	本等販売費/著作権料	100,000	99,130	99	会誌, GMP作成冊子, 要旨集, 技術用語集等
工場見学参加費	500,000	363,000	73	第43回(塩野義、摂津)、第44回(モリマシナリ、岡山) 第45回のシカゴ・ホールは別途対応した。	
小計	17,915,000	18,702,130	104		
雑収入	0	30,000		大会御祝金	
中計	58,515,000	59,927,130	102		
受取利息	150,000	85,907	57	銀行利息	
積立金取り崩し	9,000,000	9,008,859	100		
収入計	67,665,000	69,021,896	102		
預り金(源泉所得税)	900,000	1,826,141	203	源泉所得税・雇用保険の預かり分	
前期繰越金	68,139,618	68,139,618	100		
今期収入合計	136,704,618	138,987,655	102		

〔支出の部〕

(単位 : 円)

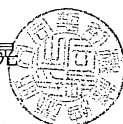
大 科 目	小 科 目	本年度予算	実 績	%	備 考
出版事業	会誌編集刊行費	6,400,000	6,762,349	106	68号、69号、70号、71号会誌
	会員名簿刊行費	450,000	430,500	96	会員名簿 6月発行 900部
	GMP手順書刊行費	0	0	—	
	出版物費				
	パンフレット作成費	200,000	171,150	86	製機研新パンフレット作成費
	記念ハンドブック出版費	12,000,000	10,962,940	91	
	小 計	19,050,000	18,326,939	96	
研究技術	総 会 費	450,000	465,410	103	シブッホホール(文京区)：4月12日
	大 会 費	9,000,000	7,723,638	86	タワーホール船堀10月18日、19日展示費用の大幅削減、海外講演者費用が少なく済んだ
	講 演 会 費	1,000,000	1,350,443	135	大阪千里ライフサイエンスセンター8月27日、会場費が計画より高かった。
	講演研修				
	シンポジウム費	1,000,000	661,875	66	慶應大学講堂11月26日、会場費が計画より低かった。
	事業費				
	教育研修会費 固形	6,000,000	5,145,669	86	参加人数が増加したが経費削減による
	教育研修会費 無菌	2,800,000	2,220,532	79	参加者39名と増加したが経費削減による
	教育研修会費 半固形	1,400,000	1,289,974	92	30名の計画が26名となったが経費削減による
	仲 井 賞	520,000	494,000	95	仲井賞2名の授賞、1名が賞金を辞退したため
工場見学会	1,100,000	823,380	75	第43回(塩野義, 摂津)、第44回(モリマシナリー岡山)、第45回(シンガポール)は別途の支払いとした	
シンガポール工場見学	600,000	580,000	97	シンガポール工場見学会の団長、ならびに実行委員長旅費のみを支出	
	小 計	23,870,000	20,754,921	87	
委員会	執行委員会費	1,100,000	1,227,576	112	年初に日程を決めたため、執行委員会の出席者が増加したことが寄与している。
	会誌編集委員会費	300,000	312,164	104	
	教育委員会費	300,000	184,276	61	計画より開催回数が減ったこと。
	工場見学会費	200,000	204,196	102	
	ホームページ委員会費	200,000	115,722	58	委員会開催回数の減少ならびに交流会費の節約
	活動費				
	GMP委員会費	785,000	468,115	60	委員会開催回数が前年より減少したため
	国際委員会費	500,000	186,860	37	委員会開催の回数が計画より少なかった。
	PAT委員会費	750,000	386,155	51	実験費が当初計画より少なく済んだことによる
	記念出版実行委員会	270,000	181,112	67	委員会が計画より少なかった。
トレーサビリティ委員会	300,000	214,740	72		
	小 計	4,705,000	3,480,916	74	
管理費	出張交通費	50,000	1,030	2	
	事務用品費	450,000	249,258	55	
	事務所会議費	200,000	122,187	61	お茶代他
	印刷費	540,000	568,197	105	コピー経費
	事務機リース料	760,000	767,970	101	パソコン、電話、コピー機
	新聞図書費	150,000	84,810	57	新聞代、本の購入が少なかったため
	一般消耗品費	0	0	—	
	器具備品費	50,000	0	0	
	サーバー使用費	800,000	469,961	59	OCNのサーバー使用料、当初の計画でサーバーの更新費用を使用しなかったため
	ホームページ管理費	1,100,000	1,055,000	96	HPメンテナンス等画面更新費、
	通 信 費	500,000	354,556	71	電話代、切手代等
	業務委託費	1,300,000	857,000	66	決算報告等会計事務所支払、法人化関連費用50万円支払う、会計関連費用の支出が少なかった
	謝 礼 品 費	0	0	—	
	交 際 費	50,000	0	0	
	公 租 公 課	372,000	427,300	115	都民税および消費税支払い
	小 計	6,322,000	4,957,269	78	

(単位：円)

大科目	小科目	本年度予算	実績	%	備考
事業所費	賃貸料(三好)	3,720,000	3,717,000	100	管理費を含む
	水道光熱費	260,000	255,444	98	
	清掃料	95,000	72,400	76	
	小計	4,075,000	4,044,844	99	
人件費	給料	14,215,000	14,401,000	101	
	交通費	1,022,000	1,021,510	100	
	小計	15,237,000	15,422,510	101	
保険料	200,000	195,091	98	雇用保険代	
海外出張費	500,000	0	0	海外出張を行わなかった。	
調査費	50,000	11,124	22		
予備費	250,000	166,119	66	PC故障により新規PC購入、トイレの便座をウォッシュレットに変更	
20周年記念品代	1,000,000	1,344,000	134	20周年記念品が計画より単価が高くなったため、大会全体の経費の中で吸収	
雑費	300,000	131,075	44	振込手数料	
小計	2,300,000	1,847,409	80		
中計	75,559,000	68,834,808	91		
別途積立金	0	0			
支出計	75,559,000	68,834,808	91		
預り金(源泉所得税)納付額	900,000	1,520,161	169	講演者、執筆者、事務局員源泉徴収税、20周年ハンドブック執筆料の源泉徴収税分増加した。	
当期余剰金(次期繰越金)	60,245,618	68,632,686	114		
今期支出合計	136,704,618	138,987,655	102		

平成22年度の収支決算について
上記の通り報告します。

平成23年1月25日(火)
製剤機械技術研究会 会長 岡田 弘晃



上記計算書および帳簿等による監査の結果、
いずれも正確なものと認めます。

平成23年1月25日(火)
製剤機械技術研究会 監事 砂田 久



同 同 山口 博之



[預金・現金残高内訳]

定期預金(三井住友)	20,000,000
定期預金(三菱東京UFJ)	10,109,836
定期預金(りそな)	10,088,346
決済用普通預金(三井住友)	11,500,000
普通預金(会長口座:三井住友)	11,921,965
普通預金(局長口座:三井住友)	2,365,074
郵便預金	0
現金	422,513

合計 66,407,734

[第3号議案]

製剤機械技術研究会

平成23年度会務計画(案)

平成23年4月18日

会 務	日 程	場 所	実行委員長	備 考
総会・特別講演会	4月18日(月)	文京シビック小ホール 東京		特別講演2題
第20回講演会	8月5日(金)	慶應義塾大学 マルチメディア講堂 東京	脇山実行委員長	
第21回大会	10月13日(木) ～14(金)	静岡県立大学 静岡	板井実行委員長	特別講演 一般講演 交流会
第12回製剤機械技術 シンポジウム	11月頃予定	大阪府立大学 学術交流会館	谷野実行委員長	交流会実施
第46回工場見学会	3月11日(金)	大正製薬(株)	宮嶋委員長	参加者100名実施
第47回工場見学会	6月11日(金)	東北ニプロ(株)		震災の為に中止
第48回工場見学会	10月初旬予定	未定		参加者未定
教育研修会	草井委員長			
	第10期 内服固形製剤 4月より8回	東邦大学、ホソカワミクロン(株) (株)徳寿工作所、(株)パウレック (株)菊水製作所、フイット産業(株) CKD(株)、大成建設(株)、 工場見学先検討中	大石分科会委員長	参加者約40名
	第7期 無菌製剤 6月より4回	富士薬品(株)、澁谷工業(株) 共和真空技術(株)、ホッッシュ パッケージングテクノロジー(株) 日揮(株)	細見分科会委員長	参加者約35名
	第5期 半固形製剤 6月より2回	(株)コスモステクニカルセンター 慶應義塾大学薬学部	高木分科会委員長	参加者約30名
会誌の発行	発行3,6,9,12月		草井委員長	Vol.20(No.1～4)
会員名簿発行	6月			平成23年度版

各委員会開催予定 (平成23年度)			
・役員会	1回	・工場見学委員会	8～9回
・常任委員会	3回	・ホームページ委員会	6～7回
・正副会長会議	6～7回	・GMP委員会(テクニクス分科会、CSV 分科会、日薬連GMP交流会を含む)	20～25回
・正副委員長会議	1～2回	・教育委員会(固形製剤分科会、無菌 製剤分科会、半固形製剤分科会を含む)	6～7回
・第21回大会実行委員会	6～8回	・第22回大会実行委員会	1回
・第20回講演会実行委員会	3～4回	・PAT委員会	10～12回
・第12回製剤機械技術 シンポジウム実行委員会	5～6回	・会計監査	1回
・国際委員会	4～5回		
・トレーサビリティ委員会	10～12回		
・会誌/論文 編集委員会	5～6回		

平成23年度 収支予算 (案)

(自 : 平成23年1月1日 至 : 平成23年12月31日)

[収入の部]

(単位 : 円)

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	平成23年度予算の備考
会 費 収 入	事 業 体 会 費	39,400,000	40,000,000	39,600,000	198社×20万円
	個 人 会 費	1,200,000	1,195,000	1,200,000	240名×5千円
	小 計	40,600,000	41,195,000	40,800,000	
事 業 収 入	講 演 要 旨 集 広 告 代	1,100,000	1,230,000	1,100,000	20社×50,000円+バナー広告2万円×5社
	会 誌 広 告 代	3,500,000	3,294,000	3,200,000	72号,73号,74号,75号広告+バナー広告
	大 会 個 人 会 員 参 加 費	350,000	320,000	300,000	30名×10,000円
	大 会 非 会 員 参 加 費	160,000	200,000	160,000	2万円×8名
	交 流 会 参 加 費	960,000	792,000	800,000	100名×8000円
	講 演 会 非 会 員 参 加 費	15,000	30,000	15,000	3000円×5名
	教 育 研 修 会 参 加 費 固 形 全 テ ー マ	6,000,000	6,750,000	6,000,000	40名参加×15万円
	教 育 研 修 会 参 加 費 固 形 個 別 テ ー マ	900,000	900,000	900,000	30名参加×3万円
	教 育 研 修 会 参 加 費 無 菌	2,800,000	3,088,000	2,800,000	35名参加×8万円
	教 育 研 修 会 参 加 費 半 固 形	1,500,000	1,600,000	1,500,000	25名参加×6万円
	ワ ー ク シ ョ ッ プ 参 加 費	0	0	0	ワークショップを行わない。
	シ ン ポ ジ ウ ム 非 会 員 参 加 費	30,000	36,000	30,000	10名×3000円
	本 等 販 売 費 / 版 権 料	100,000	99,130	100,000	
	工 場 見 学 参 加 費	500,000	363,000	850,000	第46回(大正製薬・大宮)、第47回(東北ニプロ・福島)、第48回(検討中・富山)
小 計	17,915,000	18,702,130	17,755,000		
雑 収 入		0	30,000	0	
中 計		58,515,000	59,927,130	58,555,000	
受 取 利 息		150,000	85,907	100,000	銀行利息
積 立 金 取 り 崩 し		9,000,000	9,008,859	0	
収 入 計		67,665,000	69,021,896	58,655,000	
預 り 金 (源 泉 所 得 税)		900,000	1,826,141	1,000,000	源泉所得税・雇用保険の預かり分
前 受 け 金		0	0		
前 期 繰 越 金		68,139,618	68,139,618	68,632,686	
今 期 収 入 合 計		136,704,618	138,987,655	128,287,686	

〔支出の部〕

(単位 : 円)

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	平成23年度予算の備考
出版事業 出版物費	会誌編集刊行費	6,400,000	6,762,349	6,700,000	72号、73号、74号、75号会誌
	会員名簿刊行費	450,000	430,500	440,000	会員名簿 6月発行 900部
	GMP手順書刊行費	0	0		
	パンフレット作成費	200,000	171,150		
	記念ハンドブック出版費	12,000,000	10,962,940	365,000	未払い原稿料
	小 計	19,050,000	18,326,939	7,505,000	
研究技術 講演研修 事業費	総 会 費	450,000	465,410	470,000	シビックホール(文京区) : 4月18日
	大 会 費	9,000,000	7,723,638	7,000,000	静岡県立大薬学部講堂 : 10月13日、14日
	講 演 会 費	1,000,000	1,350,443	1,000,000	東京、慶應大学薬学部マルチメディア講堂8月5日
	シンポジウム費	1,000,000	661,875	1,000,000	大阪、
	教育研修会費 固形	6,000,000	5,145,669	6,000,000	8回×40名(全テーマ参加)+30名(個別参加)
	教育研修会費 無菌	2,800,000	2,220,532	2,800,000	4回×35名
	教育研修会費 半固形	1,400,000	1,289,974	1,400,000	2回×30名、
	適 格 性 評 価 ワ ー ク シ ョ ッ プ 費	0	0		
	仲 井 賞	520,000	494,000	526,000	仲井賞2件6名分の盾、賞金
	工 場 見 学 会	1,100,000	823,380	930,000	第46回(大正製薬・大宮)、第47回(東北ニプロ・福島)、第48回(検討中・富山)
	シンガポール工場見学	600,000	580,000	0	
	小 計	23,870,000	20,754,921	21,126,000	
	委員 活動費	執 行 委 員 会 費	1,100,000	1,227,576	1,300,000
会誌編集委員会費		300,000	312,164	300,000	委員会活動費
教 育 委 員 会 費		300,000	184,276	300,000	委員会活動費
工 場 見 学 会 費		200,000	204,196	200,000	委員会活動費
ホームページ委員会費		200,000	115,722	200,000	委員会活動費
GMP委員会費		785,000	468,115	770,000	委員会活動費
国 際 委 員 会 費		500,000	186,860	500,000	委員会活動費
PAT委員会費		750,000	386,155	750,000	委員会活動費
記念出版実行委員会		270,000	181,112	0	委員会活動費
トレーサビリティ委員会		300,000	214,740	310,000	委員会活動費
小 計		4,705,000	3,480,916	4,630,000	
管 理 費	出 張 交 通 費	50,000	1,030	50,000	事務局関係交通費
	事 務 用 品 費	450,000	249,258	300,000	事務所事務用品購入費
	事 務 所 会 議 費	200,000	122,187	200,000	お茶代他
	印 刷 費	540,000	568,197	540,000	事務所印刷代
	事 務 機 リ ー ス 料	760,000	767,970	740,000	パソコン、電話、コピー機のリース代
	新 聞 図 書 費	150,000	84,810	130,000	新聞代、書籍購入代
	一 般 消 耗 品 費	0	0	100,000	トイレ関連等消耗品
	器 具 備 品 費	50,000	0	50,000	
	サ ー バ ー 使 用 費	800,000	469,961	500,000	OCNサーバー借用代、38千円×12ヶ月
	ホ ー ム ペ ー ジ 管 理 費	1,100,000	1,055,000	1,520,000	HPメンテナンス費103万円、HP申込受付システム使用変更25万円、バックナンバー登録作業量24万円
	通 信 費	500,000	354,556	400,000	電話代
	業 務 委 託 費	1,300,000	857,000	820,000	経理入力、決算報告等会計事務所への支払37万、法人化関連費用45万
	謝 礼 品 費	0	0		
	交 際 費	50,000	0	50,000	葬祭費
	公 租 公 課	372,000	427,300	208,000	都民税支払、消費税
小 計	6,322,000	4,957,269	5,608,000		

(単位 : 円)

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備考
事業所費	賃貸料 (三好)	3,720,000	3,717,000	3,730,000	賃貸料及び管理費を含む
	水道光熱費	260,000	255,444	260,000	電気代及び水道代を含む
	清掃料	95,000	72,400	80,000	事務所清掃、マット交換費
	小 計	4,075,000	4,044,844	4,070,000	
人件費	給料	14,215,000	14,401,000	14,500,000	事務局員給与
	交通費	1,022,000	1,021,510	1,103,000	
	アルバイト料	0	0		
	小 計	15,237,000	15,422,510	15,603,000	
保 険 料	200,000	195,091	200,000	雇用保険代	
海 外 出 張 費	500,000	0	500,000	GMP成果の海外発表費	
調 査 費	50,000	11,124	50,000		
予 備 費	250,000	166,119	250,000		
20 周 年 記 念 品 代	1,000,000	1,344,000	0		
雑 費	300,000	131,075	200,000	振り込み手数料	
小 計	2,300,000	1,847,409	1,200,000		
中 計	75,559,000	68,834,808	59,742,000		
仮 払 金	0	0			
前 年 度 前 払 金 振 替 額	0	0			
支 出 計	75,559,000	68,834,808	59,742,000		
預り金 (源泉所得税) 納付額	900,000	1,520,161	1,000,000	講演者、執筆者、事務局員源泉徴収税	
前 年 度 前 受 金 振 替 額					
当 期 余 剰 金 (次 期 繰 越 金)	60,245,618	68,632,686	67,545,686		
今 期 支 出 合 計	136,704,618	138,987,655	128,287,686		

[第5号議案]

一般社団法人（非営利型）への法人化に伴う審議事項

製剤機械技術研究会

平成23年4月18日

平成22年度総会において、製剤機械技術研究会の平成23年度における一般社団法人化が決定しております。そこでそのための準備作業を進めてまいりました。

正副会長会議により定款の内容が協議された結果、法人名、設立時社員ならびに役員を下記ように決定し、定款案を作成いたしました。（定款案は資料として添付）

1. 法人名：一般社団法人 製剤機械技術学会
2. 設立時社員

岡田弘晃、板井 茂、山本恵司

3. 設立時役員

理事 岡田弘晃、板井 茂、山本恵司

監事 中島新一郎

一般社団法人 製剤機械技術学会への法人化に伴い、下記内容を審議頂きたくお願い致します。

審議事項

1. 定款案は京橋公証役場で認証（この過程にて修正を受ける場合がある。）を受けた後、9月1日を目標に東京法務局で法人設立登記の申請を行う。
2. 一般社団法人 製剤機械技術学会の設立後、製剤機械技術研究会の権利、義務、財産を出来るだけ速やかに引き継ぐ。製剤機械技術研究会の全ての会員は一般社団法人 製剤機械技術学会の設立時に一般社団法人の会員として登録される。
3. 製剤機械技術研究会の権利、義務、財産の一般社団法人 製剤機械技術学会への引き継ぎが終了した時点で、製剤機械技術研究会を解散する。
4. 一般社団法人 製剤機械技術学会の設立登記後、10月13日に設立時総会を開催し、理事、監事の選任を行う。